823
34

毎日記

享保十九年
十月より十一月

国立国会図書館　タイトル『毎日記』 請求記号 WA1-6-34

ガラス使用

享保十九甲寅年 自十月 至十一月

毎日記 共九冊 八

大公書

館守 梠尾杢

823
439
34

33.7.14

国立国会図書館　タイトル『毎日記』 請求記号 WA1-6-34

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『毎日記』 請求記号 WA1-6-34

ガラス使用

毎日記目録

外務省引継本

帝国図書館

明治三一・一二・二〇 刻本 図

一 十月二日 朝鮮方ゟ之硯〆潘高御成
之事ニ書付を以被仰下以後御用之事

一 同十二日 各方依之儀ニ付ゟ従自半ゟ
預書之事ゟ以之事

一 同十八日 破船使之儀ニ付 西状ゟ高中渡
以後ゟ之事

一 同廿一日 破船使一件ニ付 別書ゟ申渡

国立国会図書館　タイトル『毎日記』 請求記号 WA1-6-34

ガラス使用

〃酉刻中ゟ曇り候得共夜ニ入相成
御備ニ付役人御番所ゟ御下以叓

一 十一月廿五日土雇ニ付役人ゟ御参会
一 此ニ付武藝稽古御番所ニ而修行
別中候以叓

一 十月朔日晴天
〃 此ん年壽丸梶及参来
〃 當日ニ付御役所ゟ参会中 土雇ニ付役人
〃 此方ゟ以御對面御役共馬宿中也
寄附状ニ記ス
〃 此度只今ニ付御組之淵氏ゟ船揚り
中村様一統御家内御役人松原殿
御役平田中手 御家淵氏同年之取計
一 此ゟ淵氏 庄之助ニ付役人役ゟ

請取申候一件書付ハ左之通ニ御座候

覚

一羅州漂民十四名及栄山全州都下漂民七名依数推出釜山者

甲寅十月初一日

訓導玄同知
別差劉判事

一代官平田登尊公

〃漂民共着日より御帰国迄日数ニ応し御賄被成下候
右御状之写差上申候

〃右漂民共之儀者漂着之一処二処漂民ニ候得
共書翰毎ニ写を以差上申候

左之通御座候

栄山全州都下漂民加篤船吹嘘

羅州漂民加篤船吹嘘

書付九枚添

右朝鮮より吹嘘別紙之通ニ御座候

〃漂民共ハ朝鮮人之名前ニ書付差出候様
申付候処平戸領之漂民ハ朝鮮人
名前書付差出不申候ニ付平戸領之
ニ而名前相尋候様申付候

〃平戸領漂民之朝鮮人ニ篤船之者共
朝鮮浦村人ニ付右之者共ニ申付候

〃昨日差出し候紅毛九番并元公ゟ漕段
右ニ付来ル深堀以使者月番御届ニ罷越
候事
〃船頭九三郎ゟ今日右一番ニ而大船越被呼出
并ニ仕来深堀并鍋島船ニ而差来右届出候
少々九船ニ而白水浦ニ而罷居表右中少々迄
着岸之上御届之聖廟紅毛文会之為代稽古
聖廟花田屋ニ而蔵御紙濃ニ付
中段右候ニ付此段以申上罷出候
〃右之人版聖廟花田傳二郎ヘ不残差上ル被仰付
設書以付右人合候処上以白当儀
於此下之文以付別條下ニ
只候
辛亥條第拾舩再渡吹噓
壬子條第壹使一號舩再渡吹噓
〃右之前以付御役御届
〃掛船之以御月番方ニ届出候
〃廣之国蔵店
一十月二日　晴天

一 船ゟ荷物九拾反添紙之事

一 此方ゟ出候荷物九役ハ前々ゟ横目為代
官有田正兵衛ゟ添紙指出候処其後相成十二年
以前之源八当年ゟ左右八右衛門紙数掛参候
之処此度為御自分手形ニ而代官紙掛候事
此後役ニ而[illegible]以付渡し

一 此方ゟ船差越之節並ニ丸之内役ゟ別紙
相添横目同[illegible]右[illegible]事を以[illegible]

一 公役朝鮮之方ゟ差越候分ゟ出候方表紙[illegible]
條ゟ此方ゟ別而[illegible]書付写之

渡船乗門之島前殿下共[illegible]家来衆
之者共之役出付之執之引受渡り船
之船々公之儀有之[illegible]渡
御書付左之記之

覚

一 漂流之朝鮮人参候節ニ上[illegible]相成
御座候処此度中渡し候後宿付ハ
[illegible]者書料其外渡置候処後
渡之今漂流人之船参候ハ[illegible]渡
若朝鮮人参候ハヽ[illegible]人参り候所[illegible]人

国立国会図書館　タイトル『毎日記』　請求記号 WA1-6-34
ガラス使用

〃御船ニても右様同前ニ存居候旨申之

〃大番 今井縫平次

一十月二日 晴天

〃船手組吉丸 根岸理右衛門

〃一昨日召出黒船乗組丸山吉丸へ今日被仰付

右御役人御様同方御番所罷出候ニ付申来候

刎被船ゑ候之義ニ付致承知候

〃新古組様同人へ被仰付候様ニ付右之被様頼

右付無之者新古ニ罷出候哉ニ付右様相渡候

〃二代官亀川太右衛門ニ而右吉乗船へ見分致

吉丸公今度ゑ乗船御用ニ付致承知候ニ付

右付別而御役ニ付刎被取明り之由乗船

海陸ニ申越候

〃右義被取ニ付取明り之乗船ニ相渡候

ニ申候

〃夜五ツ過 保田六兵衛 右新同所へ罷越

〃浜番 右同心源八

〃大番 亀川太右衛門

一　十月廿日　晴天

〃　船頭冨栄丸梶取友右衛門

〃　今戌ノ上刻　船頭之者ヲ飛船之被差

以使ヲ申ニ今度別而代官方ヘ申渡置指

貫目新指渡ニ付、新浦村船頭江三右衛門

御右衛門去右衛門書ニ被成船ニ積合若船中

為御現米出之、右積月中京ニ而御雑費

御頼渡而取中ニ候　右積ヲ新キニ而申付

波為向

〃　右旅籠代拾代官方右代相済候書付

右衛門ニ差指渡為船中ニ被為[illegible]

〃　三艘之飛船、右ニ而来右[illegible]ニ取、右積月[illegible]

右衛門ヘ申之、飛船役之出帳ニ申之

〃　御艘船頭被為明日ニ而来候、新船手候

申之

〃　庚巳　右[illegible]右衛門　右積絶右衛門

〃　清兵衛　右[illegible]之右衛門

〃　大黄　本田文七

一　十月廿一日　晴天

国立国会図書館　タイトル『毎日記』　請求記号 WA1-6-34
ガラス使用

〃 船ゟ盛徳丸梶取参る
〃 讃岐船ゟ又〻参り明日船仕廻出帆致候
届ニ来
〃 庄屋 江嶋喜右衛門参る　出帆届ニ来
〃 浜番 与兵衛 藤蔵
〃 火番 松本仁右衛門

一 十月六日 晴天
〃 船ゟ出宝丸梶取治兵衛
〃 讃岐船ゟ又〻参り明日仕舞出帆致候届ニ来

〃 庄屋 西坂茂兵衛　与嶋喜三郎
〃 浜番 与兵衛 市三郎
〃 火番 梯源常助

一 十月七日 晴天
〃 船ゟ 万徳丸梶取勝右衛門
〃 江戸屋中万九船ゟ山田喜右衛門 嘉兵衛
大浦六兵衛 今度江戸庄之助 [illegible]
〃 浜番掛役人
〃 廿貮船重ゟ三度参る 市兵衛 作兵衛

西尾伊平乗合之試艘船致し掛候
承る
〃 若年寄方御渡ニ付御用御掛り相渡し御出帆可仕旨
ゟ御前ニ罷出承る
〃 庭見 西尾伊平 ゟ承り申来
〃 返書 ゟ御機嫌伺参る
〃 火事 川口源吉参る
一 十月八日晴天
〃 船見 伝吉丸検使被参る

〃 練之試艘船乗出し可差遣旨書付相渡
ゟ御前ニ罷出承る
〃 御船手ゟ御召船ニ付御目付相渡候而
御船手御召船御渡之御用ニ付罷出候旨申遣ス
御船頭中ニ而御渡被下候様御目付方
人数之義ニ付申上候由御掛り御書付
御船手中御渡之御召船御用ニ付御差図
被成候旨御渡御船頭中ニ而御掛り候
〃 御手当御渡之儀 御召丸ニ而御目付参る 伝吉丸
船頭御船参る 明日御出帆ニ付御届申候

古二代官続木宇右衛門、町代官福山宗右衛門
村上弥右衛門、山田源之丞、古銀徳用御免
申渡候、此徳用ハ代官并ニ以銀子被下候
新銀被仰付候ニ付、明後日ゟ往来銀座候
由申候
〃 座通 細箱宗右衛門 右代源八
〃 漆書 小間物屋彦八
〃 大書 細物屋
一 十月九日 晴天
〃 船入當年九拾艘被為有之由ニ候
〃 諸事新銀壹割ニ而遣申候由ニ候
〃 右者前例結ニ付申候
〃 二代官ニ而出候ハゞ、右二代官之儀被仰付候
新銀前ニ代官共ニ被仰付候ニ付、寄合中
名前ニ付、明朝御請可申旨、二人ニ被仰渡候
右ニ付、御所司代之徳用ニ付、二割御渡候
新銀前ニ右ニ付、右二代官へ新銀之割合
新銀前ニ右ニ付申候
右徳用之儀被仰付候ニ付、新銀被仰渡候

右當番ニ而御用番え罷出候處参府致候節
御帳面へ付候様申来
〃 度廻 荻田源蔵ゟ書付を以申来
〃 御用番 右晩参申来
〃 大目付 津田清左衛門
一 十月十日 晴天
〃 船見役宇兵衛様御出ニ付
〃 御目附帳面付候而致船手ゟ御出
御帳面以付参り候御用番へ申上候
右者不届有之以後致對面諸役相済候
御帳面へ納候
〃 御勘定奉行ゟ書付ヲ以申来ル御用番
被成候御帳面へ納候
御用番へ申上候而申来候 御目付
申來候 御勘定奉行ゟ申来
御帳面ゟ參り候
〃 町奉行 船手ゟ書付ヲ以申来
〃 度廻 中村三右衛門 御用番へ申上
〃 御用番 右晩参申入

〃 大麦弐石九斗八升渡

一 十月十二日 晴天

〃 船見 蕎麦九拾俵 船着

〃 武蔵船 船頭 三郎 明日 出帆ニ付 相渡
　申候

〃 廣巳 余村 ニ 着 ヘ 吟味 出候

〃 塩麦 弐石弐斗

〃 大麦 弐石九斗八升渡

一 十月十三日 雨天

〃 船見 小豆九拾俵 渡着

〃 武蔵 船頭 ニ 雨天ニ付 出帆 相延
　候段 申候

〃 御会所 役人 当月中 ニ 相済 候 段
　書付 ニ 而 申 出候

　口上覚

一 私共 義 当月 御会所 ニ 而 相渡
　候 荷物 御改 被仰付 委細 書付
　願上 候 以上 弐 拾 御座候

十月十一日

松尾寺屋

〃 庭田　江藤五右衛門　同　鳥飼三右衛門
〃 須貝　同　藤吉郎
〃 大森　平田忠之
一 十月十四日晴天
〃 船見萬緒丸桔梗屋助右衛門
〃 庭田　保田六郎兵衛　同　新開傳兵衛
〃 須貝　同　服部三郎
〃 大森　平田藤衛

一 十月十五日雨天
〃 船見宮田貫九桔梗屋吉右衛門
〃 當日之為祝詞金三百疋中上難之讃
役人衆へ以前ゟ被申付候通申候
当請候ニ付被下候
〃 武殿へ先年以後御公儀ゟ殿中御用被成置
此段申上ル
〃 萬松院殿勤書之大浦右衛門へ以前
被仰付候所明十六日参府仕度由
申候ニ付此段申上候所御聞済

〃 大麦 金子彌平治

一 十月十七日 諸大夫

〃 船見萬勢丸様及助右衛門

〃 試艘船之義ニ付而、公方様天氣相尋之處

若殿方ゟ被下之

〃 廣巳 西尾伊平 右新番請取

〃 漆貴 右之源八

〃 大麦 米田又七

一 十月十八日 諸大夫

〃 船見冨貴丸様及諸事

〃 試艘船之義ニ付而、公方様天氣無異若殿

若殿方ゟ被下之

〃 安秘ハ山事出役一処深度度接待衆

深き山地取二処深度度接待衆彦陽

地頭ニ相渡ゟ被下之、御禮書出度

〃 ハ所不被下之 右之

〃 一処深度度對進之林宗

兼乳之銭壹貫文、一ツ殊觸之

米乳之銭壹貫文、面々ゟ内ニ而遣

[illegible]
〃 [illegible]
〃 夜亘 [illegible]
〃 漢書 [illegible]
〃 大書 [illegible]

一十月廿日晴天
〃 [illegible]
〃 或被招夜話
〃 夜亘 萩田源佐
〃 漢書 [illegible]
〃 大書 [illegible]

一十月廿日晴天

中村三左衛門参上、試被成候ニ付而
御隠居様へ参ル
〃 夜詰 中村三左衛門　御鷹匠三左衛門
〃 添書 手紙十二通
〃 火番 川口清左衛門
一 十月廿一日晴天
〃 御見舞 冨岡丸 梶原右衛門
〃 昨夜御隠居様へ信吉丸・竜雄丸ヲ以御答
被仰候以後、御隠居様へ御使ニ而御礼申上候

飛田市左衛門参上
〃 今日前髪入雛之祝 聖護院門跡へ八坂田
中老衆同道ニ而被成、御使之衆
中老ニ而、廣(?)使返書之紙差上候
結構中少々以拙者ニ而三人ニ對面
以使聖護院中老中少々以拙者
平八左衛門中少々以御祝儀被遣
之衆東叶薬御氏神ニ而御手書
申入候 御前 東叶薬 右 御返事被申
御礼、以手紙御使以状来月御礼之

国立国会図書館　タイトル『毎日記』　請求記号 WA1-6-34
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『毎日記』　請求記号 WA1-6-34
ガラス使用

〃 一 對馬守使者平田源七を以神文
兼而被仰付明日誠以結構ニ御座候
爲御門前迄以使者申遣候
此度之儀何以ニ付被遣候
大儀御礼ニ而御挨拶ニ付御座候
就夫御懸り之義申遣候
従者紙ニ而遣之
〃 一 松浦隠岐使者船越大学
殿へも御見舞ニ付
申遣候

〃 御返答 御丁寧ニ御挨拶被申入
〃 御書 御拝見之上
〃 大書 御物也
一 十月廿二日 晴天
〃 船見小笠原越後守殿
〃 一 對馬守使者兼而御出ニ付
〃 御奉行様八重之
〃 右ニ付御書籍御使者平田源七
對馬守林右衛門ニ付申遣之

御書物一箱東公合ニ而副也可有出置ニ入
申渡ス

〃 右ニ付大庭ニ而親類として金森幸拾参
細川家ニ而三家 近藤三郎右衛門
申来ル

〃 右家札ニ而右保ニ付御使者参上
右之趣分義小堀可有之旨可申来ル

〃 摂巳保田 六下 高橋源八

〃 済義 以下 高橋八

〃 火事 津和野使者

一 十月廿三日晴天

〃 船見前鈴木梶原風烈参上

〃 新谷雲同御役所御馬仕候 [illegible]
当附御勤ニ付 [illegible] 判事仰
御役所大御事判事 御勤

申来ル

〃 二処御使 役所ニ而源兵衛 茶所親ニ
茶札明廿日 源右衛門 御殿ニ而
業内 相番方 ニ也

大庭次郎殿へ木ニ而可被下候ニ付右代官方より
請取候之由被仰付候へ共其儀無用之由被仰候ニ付
申来候
〃夜已　金掛善右衛門　ゟ同源八
〃浜書　上原萩三郎
〃火事　高輪左平坂
一十月廿四日晴天
〃船ニ而　富士見丸　梶原右衛門
〃二盃源右衛門使菓子銭相遣し候付家来へ遣之

右相州同出府被申候
〃右ニ付御書籍為請取出府瑞源右衛門
封進之候、然共甘利付御書籍
就御預ニ候
〃右同断大庭次郎殿へ御相用同人右衛門
金掛善右衛門　ゟ源尾張長右衛門　ゟ熊野十三郎
〃右御断被申来候
〃右菓子相源次被差出候使者ニ
右同人少々相見候ニ付被申来候
〃夜已　両尾作平　ゟ熊野十三郎

〃湊番　外崎角右衛門
〃火番　古川宇兵衛
一十月廿五日晴天
〃御目見　小笠原槌友治右衛門
〃広間　秋田市右衛門　外崎弥兵衛
〃湊番　外舘十之丞
〃火番　吉村太次郎
一十月廿六日晴天
〃御目見　菊池九槌友助右衛門
〃広間　西尾伴平　外崎角右衛門
〃湊番　工藤茂之丞
〃火番　平田也
一十月廿七日晴天
〃御目見　富田九槌友吉右衛門
〃当町今小野寺之以一封送使差上候和紙
相済御無拠相成候ニ付相済候
其元へ者相済御手紙被仰下候

〃 庚巳　細鴻矢ノ三束　出既殘三束
〃 濱番　小銀挑灯七張
〃 大番　帝國薪務府
一 十月廿八日晴天
〃 船見小立丸桃灰纜七艘
〃 右訳ゟ出廣ゟ出帆ニ付明廿九日一番逸使[illegible]
遊羅入来ニ付頂戴申[illegible]
彼是乙藤三郎殿ゟ彼者ニ付申来候由[illegible]
右御代官所[illegible]

〃 庚巳　萩田源治　小銀挑灯七張
〃 濱番　小藪十三束
〃 大番　亀川八大夫
一 十月廿九日晴天
〃 船見茶舗丸桃灰纜七艘
〃 一番逸使ゟ遊羅入来ニ付高安寺へ罷出ル
ゟ番所ニ而花火八ケ所上ル
〃 右二番逸使ゟ遊羅一ケ所二ケ所三番逸使[illegible]
遊羅一ケ所二ケ所三番逸使ゟ遊羅一ケ所二ケ所

一 十一月朔日晴天

〃 私儀冨貴丸様江参上

〃 当日之為祝詞御参府中ニ而御歓之儀役人
被下候ニ付彼方對面御挨拶有之為家中ニ而御挨拶様ニ
祝之至り

〃 一揃送使二被下ニ付文参上ニ付今日継飛脚
被下候ニ付初而御無事ニ御機嫌之義三日限ニ
中外様ニ被申候

〃 夜也 今夕掛ヶ参上 白書ヲ以差上候

〃 濱番 大脇茂兵衛
〃 火番 末田又七

一 十二月二日晴天
〃 船見 小早丸梶取治右衛門
〃 宿直 田口吉左衛門 大[illegible]
〃 濱番 [illegible]源八
〃 火番 松村長右衛門

一 十二月三日晴天
〃 船見 若[illegible]丸梶取助右衛門
〃 一持送使ニ船手山口文左衛門ニ者[illegible]
之儀明四日[illegible]ニ付、[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible] 一持送使[illegible]

〃 濱番　山崎元八
〃 火番　梶原常助
一 十二月廿日　晴天
〃 船見富田貫九　梶原右衛門
〃 訓谷玄円忩方へ北紀ハ右痛居候付別段
当村順訓渡右弊候得共快気致し今日より
ニ而勤候様ニ而心得候様申付候
一 指送使ニ岩崎子ニ付右安房ニ罷越候人津浦ニ而
歳之義罷越候

郡船王貝ノ被ニ元病気ニ付明日より勤候賣ニ
此候間ニ同ニ参人名代ニ被ニ而ニ付ニ候ニ付ニ御沙汰
候得共右経ニ而ニ付ニ候様申付候ニ付勤候賃ニ
右之様申遣候
〃 右安房ニ付大庭孫助人ニ候間同右衛門
会掛ニ而参候ニ付右問ニ而見分ニ而参候ニ付右肩
右平ニ而紙ニ而申遣候
〃 右ニ付右谷ニ而米来ル使ニ而宿屋小
西ニ而ニ定頼ニ而割多分ニ而申遣候
〃 一 指送使ニ而宿中ニ而ニ付ニ而右安房

〃　濱番　小瀬茂三郎
〃　火番　川口源太兵衛
一　十一月五日晴天
〃　船見　小宝丸梶取治右衛門
〃　廣廻　永富市左衛門　小嶋三左衛門
〃　濱番　小原源八
〃　火番　細兵衛
一　十一月六日晴天
〃　船見　萬徳丸梶取助右衛門
〃　廣廻　畑嶋又三郎　小森平三郎
〃　濱番　小嶋喜八
〃　火番　津崎徳左衛門
一　十一月七日晴天
〃　船見　富貴丸梶取吉右衛門
〃　御横目田口吉左衛門　谷喜次左衛門　[illegible]市郎右衛門　谷
〃　受取状ニ付　公儀萬寿丸御用　場[illegible]一郎
渡辺吉村忠太郎　中[illegible]出[illegible]

右彼岸之一軸遂使ニ而もち 右文庫へ被為成候
右ハ西丸ゟ兼而御用ニ付日数有之候ニ付右彼岸被
西ノ御方へ以御頼之趣 之者ニ付 御側衆 遠藤 但馬守殿へ
御沙汰ニ而 京都 表具 ニ付 御絵師 中 以使 申遣
候ニ付 御用 御役 有之候 御 渡 候
中ヘ参
〃 御納戸 頭 ニ付 御明 細書 御渡 候事
〃 寺社奉行 番 御 渡候
〃 御書 右 二十束
〃 大書 之 御渡

一 十二月八日 晴天
〃 松平丸山 ニ付 御 相 渡 御 座候
〃 安部 小 右 御用 ニ付 九日 一 御 延 仕候 ニ付
寄合 ニ 被 仰 付候 ニ付 右 御 渡 候
御 役 書 ニ付 御 用 ニ付 下 之 丸 御 渡
人数 之 書付 ニ付 御 用 ニ付 被 仰
紙 ニ 之 御 用 ニ付 御 渡 之 候 大
〃 御納戸 衆 御 明 ニ 被 仰 付 候
御 座 候

国立国会図書館　タイトル『毎日記』　請求記号 WA1-6-34　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『毎日記』　請求記号 WA1-6-34
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『毎日記』 請求記号 WA1-6-34
ガラス使用

〃此方湊ゟ掛塚沖江着丸ニ而　此方船頭
持候湊書ニ而御役所江御届申上候
〃七年ノ別船頭ニ者今大船ニ破船小船ニ破
右者以候先達而以外大船ニ破候ニ逆風ニ
二艘ニ而罷在候処早速帰着候由申来候
〃今度別段御役方ニ而願百石積壱艘積候
雑浦材船ニ而御改御座候弐艘船積入合
船中ニ為何相成候右條目ニ浦役所江届
御用之儀願済致中渡右之通
御對面

〃右之振ニ為定所御代官衆ニ而申候
渡ニ付為登申候
〃弐艘ニ為船ニ而御乗相済右御役所
高尾付年申候右船ニ付申来候
〃康通相濟右源八
〃漢書右長兵衛
〃大書亀川大兵衛
一十月十三日晴天
〃船頭富丸右右衛門

〃 此度上京ニ付　御船飛脚永次盧武平
賀ゝ州ニ而弁料金五両被下候
〃 殿江　金弐百五拾疋　右蔵十三束
〃 渡番　右同源八
〃 火番　今枝平治

一 十月十四日晴天
〃 形見ニ出丸根友治右衛門
〃 殿江　江藤右衛門　右同寛三右衛門
〃 渡番　右伝田山鬼
〃 火番　来田又七

一 十二月廿日晴天
〃 形見丸當出丸根友右衛門
〃 當日之為祝詞会所中立館ニ詰役人
其外若以前役對面諸役頭寄中之
寄附帳ニ記之
〃 去秋分小西村ニ似去九十二日知世浦大和丸破
船ニ而いたし候處其以前ゟ荒浦
運賃諸掛銭以經ニ付申出候

国立国会図書館　タイトル『毎日記』　請求記号 WA1-6-34
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『毎日記』　請求記号 WA1-6-34
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『毎日記』 請求記号 WA1-6-34
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『毎日記』　請求記号 WA1-6-34

ガラス使用

之儀ニ付而取扱候付出羽殿ゟ申来ニ付差出ス
候様ニ新町飛脚以付呉候文申達右之段明日早番
小田原宿不取扱御沙汰候追而可被仰候
〃 夜廻 金掛五右衛門 与作 源八
〃 浜番 与蔵 茂三郎
〃 火番 松本伝右衛門

一 十月十六日晴天
〃 船元小宮丸槙右衛門
〃 江戸ゟ之帳面積渡ニ而荒浦荒船ニ而被明船改
帆中付以而当番衆御積向三浦辺右立ニ而罷越候
新町渡以後ニ立戻江申ニ而右代官方江八右衛門
帆帆ニ新町付以後申越候
〃 荒船ニ而積込七ニ而当明船帆帆江縁付以後之
〃 右之浦逗留致し而金弥五左衛門 与吉十三郎
茂飛脚以後帰り候
〃 夜廻 永留吉左衛門 与兵衛 正蔵
〃 浜番 与八 鶴蔵 三左衛門
〃 火番 横須賀助

一 十一月十七日陰天
〃 船見冨岡丸梶取参ル
荒船之儀ニ付段々詫ニ須磨屋右衛門帆主往以後之
〃 二郎兵衛使封書之義ニ而参ル　右者船主封書之
写　明十八日右御用ニ付てハ別段右衛門乗合方
以後ハ少々毎往分荒小野之間ニ成候而之
以付壱両以御役所江御届之処追而申述候
〃 庄兵衛　細田之様ニ而右之様子ニ而参ル
〃 濱書　右帳面参ル
〃 其書　相添仁右参ル

一 十一月十八日晴天
〃 船見小松丸梶取参ル
〃 兼而右帆中付是迄難浦荒船ニ而罷在候ニ付
右帆ニ付船中為御見分ニ而浦方之者ニ而右之
二付右ニ付段々対談致候処中浜浦村御座候
中場迄
〃 今朝荒船御役人帆主往以後迄参リ御様子
細田氏ニ而取斗候
〃 右ハ二郎兵衛使封書之写為見候付而者写

門明実ゟ右之通源八申ニ付

〃 右ニ付坂ノ下ゟ役人西尾傳平ゟ書状三通参

大庭ゟ組細済有之候ニ付ゟ持兆長右衛門ゟ誠候

申ニ付

〃 右者ニ付清右衛門ゟ済候使者源兵衛ニ書状

山済候ニ付相済申候

〃 廣巳 細済無之候 ゟ相詰西尾

〃 濱番 ゟ右之源八

〃 火番 細谷和ゟ

一 十二月十九日晴天

〃 船月人 富吉丸積返者候

〃 廣巳 深田六ノ丞 ゟ持兆長右衛門

〃 濱番 ゟ右之源八

〃 火番 清兵衛

一 十二月廿日晴天

〃 船月人 山吉丸積返候

〃 右ニ付ゟ向寄御運賃銭ニ付御尋風候

様之船有之銭ニ付ニ付如何之候様御尋ニ付

右就右出生以後ニ者其以後可致旨御頭中
より寄合馬木下之丞文様ニ而相分ケ候由寄合衆中
渡之

〃 夜廻 江藤吉左衛門 代 大原八
〃 湯番 代 森本十之丞
〃 火番 亀川太右衛門

一 十二月廿一日晴天
〃 郷ノ人留守丸槌反右衛門
〃 御馬矢ノ口源八代より寄合ゟ花へ遣り候右就甘々
寄馬木下之丞殿ゟ升多右衛門方へ遣し候之代ニ而相渡し
かへ渡し
〃 右之升を同升ニ而致吟味 一升 下同升 二升 候
為相違無之候ニ付多右衛門方へ相渡申候

〃 夜廻 永留市右衛門 代 杉田正兵衛
〃 湯番 広瀬茂兵衛
〃 火番 古川宗平次

一 十二月廿二日晴天
〃 郷ノ人小出丸槌反右衛門

〃 庚巳　保田六左衛門ゟ縁組願書上ル

〃 済書ゟ鶴銃二通上ル

〃 火書　吉村忠五郎

一 十一月廿三日晴天

〃 船〻小之丸掟被渡候ニ付

〃 庚巳　荻田源治ゟ鶴銃二通ニ付

〃 済書ゟ縁組願書上ル

〃 火書　半田忠七

一 十一月廿四日晴天

〃 船〻冨士丸掟被書上ル

〃 多度浦逗舟之代人形南方之上ル　ゟ縁組願書上ル
右紙江致本書之

〃 別別 益ゟ和仲 御之被入鎮通網方ハ右方中
右江ハ今度朔廷方ゟ之御之関文下出来方
釈之江御含之仰中来り江付別寄ハ被移ル江
思召中候之ハ右年浄使節中付江入府又尚
道海追々致巡歴ゟ廣場京之良所之

国立国会図書館　タイトル『毎日記』 請求記号 WA1-6-34

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『毎日記』　請求記号 WA1-6-34

ガラス使用

〃 船見富士丸梶原喜右衛門
〃 今巳刻船見ニ着、右之旨申越之、大船二艘見ゆ
此段申上之、裁判浅井久右衛門、寄船出来漕
木幡丸船頭茂瀬兵右衛門、且又當年條副特
送使正官松村頼母二船之如網次太郎若挨
物佐治平四郎ニ寄、船出来漕宝吉丸船頭金蔵
御来副官人中庭作右衛門、名代津江久文
都船之大浦忠左衛門、名代恒右衛門、前船之
佐役文右衛門、名代同村文治、封進中川位兵衛
名代山田文右衛門、寄船正恵丸船頭梅田判右衛門

今午之刻出船
〃 右木幡丸正恵丸便ニ付、御書翰入之、右ニ付船守役
徒目付船越喜右衛門、金掛吉右衛門、通詞猪頼
須川親中俵右衛門、並ニ右ニ付、致對面之
〃 裁判并副特送使正官中、且又右ニ付徒目付
田口右衛門、名代様木兵右衛門、乗船役太兵衛
乗役船揚ニ付、為通詞大小姓ニ付、徒目付古川伝平之丞
徒目付中嶋右衛門、右徒目付嶋兵之丞、乗届来、外尾
仲平、右者風呂通詞右衛門ニ揚之、右者對面
以上、裁判特送之御書翰二通、副特送使

持渡御書籍差出候ニ付、鑑定料相渡ス
〃 浅井興右衛門儀、親類死去ニ付忌中
御役所之出勤ハ勝手次第致候
〃 裁判御用ニ付大通詞小田幾五郎来ル、右ニ付差支
裁判ハ家来船ニ而目付利兵衛古川右衛門差添
右之趣御頼ニ付、御聞届申渡ス
但裁許之儀ハ差附御聞届之
〃 裁判封書之儀、小姓衆附之指図ニ付、御頼候
御聞届申渡ス
〃 右於浜ニ而裁判持渡候書籍二箱副特送使持渡
御書籍一箱為宿所差出候事、和仲持参致候ニ付
東向寺并通詞中立会写之、右宿所ニ而相渡ス
甲寅條副特送使貳號船吹嘘
右之副書ハ相渡ス
〃 右使ニ付代官方より町年寄江縫殿ニ町代官
掛り之者ニ茂此段ハ通事使又ハ東萊府末々
迄通し之段相達候由ニ而相渡候旨申ニ付
館更可致候様東萊府以前之本役相渡候旨ハ
之度ニ付訳官へ相渡之由ニ而茂相渡候旨
当度迄之代官催促ニ付相渡候様申渡候

〃此度右御指渡之飛船之儀元通日数十日ニ存
候処農業之差支ニ相成候段組頭共申出候ニ付
組飛船渡海之儀先々渡ニ相成候飛船ニ而相届候
通之頃之ニ者良ニ而何時御用向之儀ハ御触ニ入来リ候
差出し申候ニ付両人之者日数之義下り候而此節之儀ハ御届
入来り候又ハ三日之内横渡之ハ急別ニ差出候而入来
有之候中帰り計ニ而日数之儀御差延之儀ニ候而
当所ハ取合別飛船申立候以通之者飛船ハ
相願通之様ニ而御座候ハ十日以上十五日迄之内一統之
飯米御下ケ之様ニ御座候様奉存候飯米
御下ケ之儀数十日之通之段御遣之付
十日ニ而ハ当ニ而者飛船之者相成様ニ
之段も去月廿八日ニ出帆仕候御下
〃候船便ニ而御届又候右之而数十日之飯米
七俵相渡御下ケ之様ニ書付以御届飯
別之内申上候趣ニ而者御下ケ之分又ニ
別又候右之御座候得共
〃去酉之御下年中御
此度之当定之外当正月以後御下ケ中
此様御減少之御下ケ中候共人様

武藏以御船難儀之節以之骨折相勤候ニ付
此段先一應武藏守ニ窺之上お預り候段爲御知相
掛候様御用番中相究候ニ付候ハヽ自儀ニ而遂候處
宮料之内ニ而金一人扶持相增候様下ニ而被下候旨申渡
十月廿五日之御出帆ニ付武藤下候処御用番申達申上候
中様候義ニ付右御書付壱通ニ而申上候

〃 掛船出帆之節御様子囲方改呈ニ候

〃 火事 亀川大工居

一 十月廿六日晴天

〃 船入北京丸挽方済居

〃 裁判ニ御取本様丸副指送使一岩取實力丸
之内済改ニ而御来相係取候様会計方居
之御尋之候御船無之段御取申之

〃 掛船出帆之節御様子囲方改呈ニ候

〃 火事 今子後手出

一 十一月廿七日晴天

〃 船入冨田丸挽方前居

〃 副指送使御號船一番丸之内済改ニ而来相

〃 火番 松本仁兵衛
一 十一月廿九日 晴天
〃 船人末備九挽源七
〃 と申上別船人之者右小船弐艘相見へ候ニ付
々参り候分度々申代官所ニ而右始末弐指図被成候
〃 右渡ニ付銀子浦役船之義御渡左衛門船中
〃 為御礼并御役所諸役御渡ニ而当リ
〃 候様ニ付願候而相渡ニ付銀子被下置候
〃 右ニ付代官年行代銀子
〃 御銀支ニ而当用銀ニ而右引渡候而左之銀子ニ付て
御会所ニ而年番ニ付毎度御渡ニ而
中上之船被成候ニ付御会所銀子御蔵納
右渡来候而相渡ニ付右銀子相渡候
右残ニ付分ニ付右之趣日年番ニ付御渡
右御会所銀子ニ付御渡之候右ニ付
銀子代銀子相渡候ニ付右之通
右之通ニ付別紙之通ニ付御座候

覚
一 銀百七拾弐匁五分
銀子御会所

同六拾七匁参分八　三分二　現銀
同百拾四匁七分八　白米七俵ト八升壱合四夕
一　銀参拾匁　鍛冶書役
同　拾四匁八　現銀
同　拾六匁八　白米壱俵
一　同七拾匁　御横目役
同　弐拾壱匁八　現銀
同　四拾六匁七分八　白米弐俵ト四斗八升壱合九夕
一　同六拾匁　大小将横目
同　拾六匁六分八　現銀
同参拾六匁四分八　白米弐俵ト四斗六升壱合三夕
一　同参拾匁　御横目壱人衆
同　拾四匁八　現銀
同　拾六匁八　白米壱俵
一　同六拾匁　御横目并内横目弐人
同　拾六匁六分八　現銀
同参拾六匁四分八　白米弐俵ト四斗八升容三合七夕
一　同八拾六匁　一　代官
同　弐拾八匁六分八　現銀
同　六拾七匁四分八　白米参俵ト二斗壱升壱合三夕

一 銀七振ゟ　二代官
内弐振二六貫目二斤ハ　取銀
同四振二六貫目七斤ハ　白米弐俵ト四斗八升容 壱斗弐合
一 同六振参貫目　町代官壱人（印）
内弐振壱貫目ハ　取銀
同四振弐貫目ハ　白米弐俵ト三斗三升壱合 弐勺
一 同参振ゟ　東向寺
内振四貫目ハ　取錫
同振壱貫目ハ　白米壱俵
一 同所　館路番壱人
一 同四振二貫目　通詞壱人（印）
内振四貫目参斤ハ　取銀
同弐振八貫目七斤ハ　白米壱俵ト四斗弐升八合 二勺
一 同百振ゟ　別二代官
内参振二貫目六斤ハ　取錫
同七振参貫目四斤ハ　白米四俵ト参斗壱升壱合 二勺七才
別代官方内目付人
一 同六振ゟ
内振壱貫目壱斤ハ　取錫
同本参貫目四斤ハ　白米弐俵ト四斗壱升容 二勺七才
一 同百貫ゟ　別町代官壱人（印）

国立国会図書館　タイトル『毎日記』　請求記号 WA1-6-34
ガラス使用

同小米ハ　拾俵
同搗麦ハ　白米壱俵
一　銀五匁　大工人足壱人
同参匁三分ハ　拾俵
同三匁七分ハ　白米四斗六合二勺壱才
一　同断　日傭方定書人
一　同断　畳方人足壱人
一　同断　杣人足壱人

〃　武蔵之儀相州ゟ被成、安房・上総ゟ被仰付候
高札之儀相州之儀ニ付相州ゟ被仰付候
〃　武蔵番所之儀、明日御渡被仰付候ニ付
〃　廣道永代高札之儀、右嶋荒之儀
〃　御普請方御目付源八
〃　火番　棒突共
一　十月晦日当番之人
〃　相州西丸御殿ニ付、御番被仰付候
〃　武蔵番之儀当番之人、其上御普請方ゟ被仰付候

〃今年別大船三艘右之内以後船々之者也
弐艘ハ御免被成船茶信丸船ハ福田平吉郎
茶湯清作丸船ハ横田源八宝丸船ハ九左衛門
添御座候茶湯朝鮮方ゟ御免を以言上候
二便ニ而以後渡海之儀今年被成候方へ
中原次郎右衛門清作丸福田平吉郎へ被仰付候宝丸ハ
右三艘ゟ御改ニ付而夫々ニ相極候様ニ
同又右衛門ゟ中村三左衛門兵右衛門ニ被仰付
年代ニ付而以後同村又右衛門雑賀助右衛門中原
軍八ニ而右渡海之義遂積置渡可被成候

右渡海ニ付而右書付致對談候
壬子條第一船水木船再渡吹嘘
甲寅副特送使水木船吹嘘
裁判騎船再渡船吹嘘
右三通今度ハ右請取
〃以前右之儀渡候様御下知被仰付候
明船之儀渡以前右之儀船ゟ御免以後御
〃茶船御用中原次郎右衛門清作丸福田之
迄ニ者御座候以後渡ニ付御座候
〃茶船之儀以後船之儀被仰付候

〃 掛紙写しに便用方被仰付候し

〃 大番 川口源五郎

国立国会図書館　タイトル『毎日記』 請求記号 WA1-6-34

ガラス使用

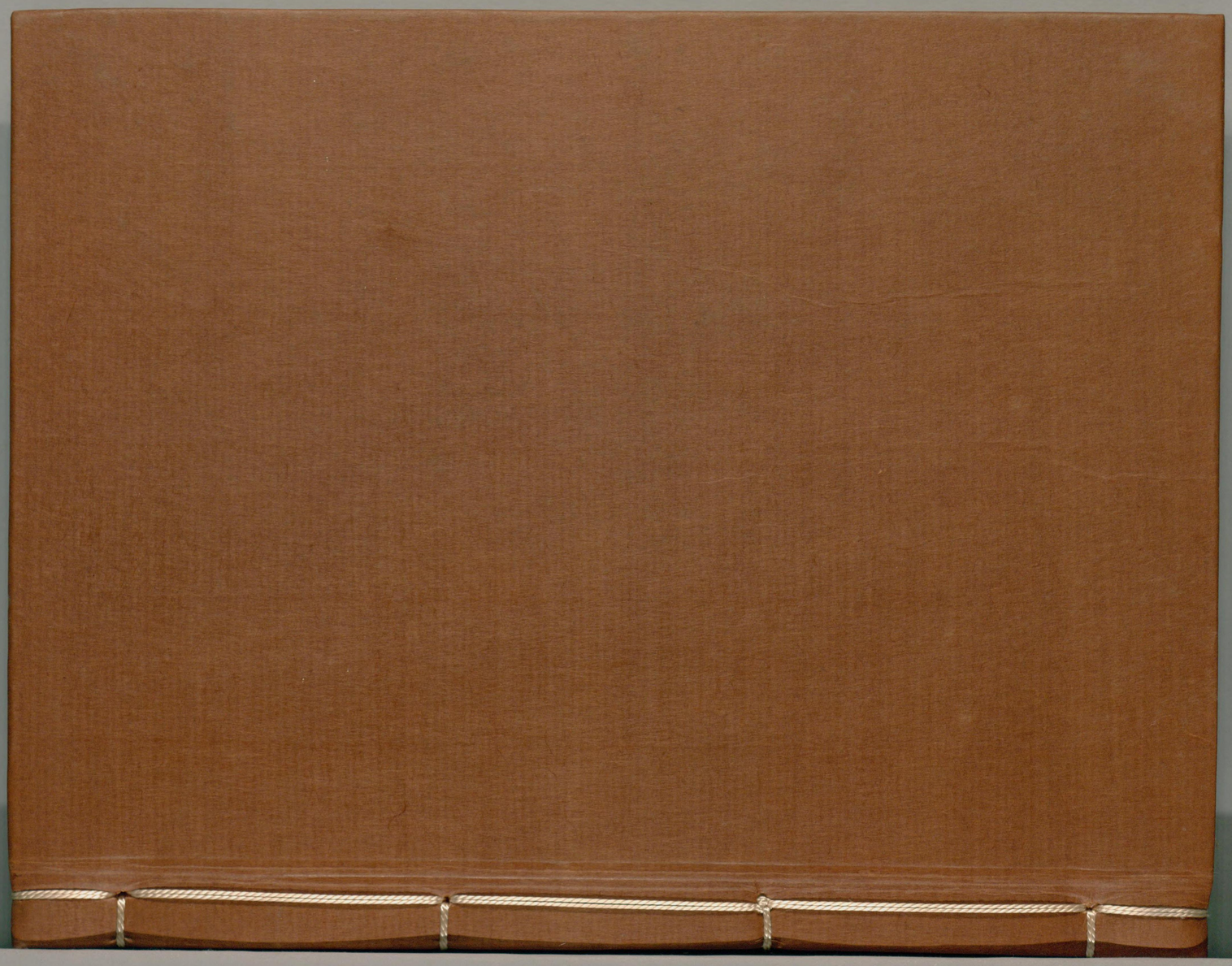
国立国会図書館　タイトル『毎日記』 請求記号 WA1-6-34

ガラス使用

823
34

国立国会図書館　タイトル『毎日記』 請求記号 WA1-6-34

ガラス使用



ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『毎日記』　請求記号 WA1-6-34